

東京農業大学
拓友会ニュース

第30号・2014年発行

発行所 東京農業大学拓友会

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1

TEL.03-5477-2404 FAX.03-5477-4032

e-mail : takuyu@nodai.ac.jp

<http://www.nodai.ac.jp/int/original/about/index.html>

第56期総会および懇親会のご案内

第56期の拓友会総会および懇親会を次のとおり開催致します。

今年度も収穫祭期間中に開催します。数々の特別イベントも計画されていますので、万障お繰り合わせの上、多数ご出席下さいますようご案内申し上げます。

なお、平成26年の収穫祭は10月31日(金)より11月2日(日)に開催されます。

- 総会 1. 日時 平成26年11月1日（土）午前11時より12時まで
2. 場所 2号館3階 国際農業開発学科 共通利用室

- 懇親会 1. 日時 平成26年11月1日（土）正午より
2. 場所 2号館3階 国際農業開発学科 共通利用室

詳細記事

総会

1. 日時 平成26年11月1日(土)

午前11時より12時まで

2. 場所 2号館3階 国際農業開発学科
共通利用室

3. 次第 (1) 一般経過報告

(2) 議事

① 第55期事業報告

② 第55期決算報告

③ 第55期監査報告

④ 第56期事業計画案

⑤ 第56期予算案

⑥ その他

懇親会

1. 日時 平成26年11月1日（土）正午より

2. 場所 2号館3階 国際農業開発学科

共通利用室

3. 会費 4千円

(配偶者、子供の同伴歓迎致します。)

配偶者および子供は、一人につき2千円)

どうぞ皆様お越し下さい。なお、懇親会のみの参加も歓迎します。

お問い合わせは h1shiwac@nodai.ac.jp に連絡をお願いします。

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1

東京農業大学国際農業開発学科 志和地 弘信

Fax 03-5477-4032

E-mail h1shiwac@nodai.ac.jp

創立125周年にむけての寄付金のお願い

東京農業大学は、明治24(1891)年、徳川育英会の育英養農業科として創設されました。平成28年に創立125周年を迎えるにあたり記念事業を実施することになりました。今後、本学が国際的な教育機関としての機能を一層高め、世界の農学の拠点大学として飛躍することを目指し、「東京農業大学国際センター」を建設いたします。これらの事業遂行のためには、14億円の資金を予定していますが、その内の一部を皆さまからの募金を仰ぐ計画としております。各界で活躍されておられる校友各位、在学生の保護者、本学の発展に深いご理解を頂いている方々、ならびに教職員の皆様には、何卒本事業の趣旨にご賛同頂き、格別のご支援、ご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

お問合せ先

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1 東京農業大学125周年記念事業募金係

電話 03-5477-2776・Fax 03-5477-2608 E-mail:bokin125@nodai.ac.jp

第14回 東京農大ホームカミングデイ

<http://www.facebook.com/>



6月21日(土)に開催された第14回東京農大ホームカミングデイ。500人近い卒業生の皆様をお迎えし、式典、講演会、教育者会議講演会、農大物産即売会、学生アトラクション、学内見学ツアー、学部・学科別懇親会などがおこなわれました。

講演会では、ラジオ日本アナウンサーの細渕武揚氏に「言葉の力・お喋りは健康の素～耳で楽しむスポーツ・ラジオの世界から」と題し、スポーツ中継のポイントや話術のコツなどについてご講演いただきました。また、学部別・学科別懇親会では旧交を温めました。

次回、第15回東京農大ホームカミングデイでは、2015年6月20日(土)です。すべての卒業生の皆様のお越しを心からお待ちしております。



(東京農業大学ホームページより)

アフリカ紛争から見えてくる世界と日本

農業拓殖学科 12期生 大津 司郎

船でアフリカへ

拓殖学科の友人何人かとアフリカで農業をやろう（経過省略）ということになり、下見ということで友人のSとボクの二人で東アフリカへ行くことになった。船で行くことになった。ある意味冒険である。ルートは横浜～香港が船、香港～カルカッタが飛行機、カルカッタ～ポンペイが汽車、ポンペイ～セイシェルズ～モンバサ～ダルエスサラーム間が再び船というルートである。今では考えもつかない珍妙なルートだ。さらに考えられないことに、1970年当時には、なんと、ポンペイ～ダルエスの船のチケットが東京の有楽町で買えたのだ。この船はイギリス系の船会社、スワイア・マッキノンの傘下にあり、当時、ポンペイ～ダルエス間にカンパラ丸という8千トンの巨大な船を就航させていた。今以上に貧しかったインドからは、まだまだ多くのインド人たちが新天地、東アフリカを目指していた。われわれ二人は有楽町でその移民船の最低クラスであるパンククラス（船底）のチケットを買ったのだ。値段は確か75ドル（当時の円レートは365円）だった。モンバサまでの約2週間、まるで蚕棚のような鉄板ベッドに寝袋一枚で来る日も来る日も寝ていた。3段の棚は見渡すかぎり船底一杯に広がっていた。インド移民のための船だ。3度の食事も当然カレー、カレー、カレーだった。ある時など、どうしてもパンが食べたくて、一つ上にあるキャビンクラスに忍び込み、テーブルの上にあったパンをいただいてきたこともあった。話が前後するが、カルカッタ～ポンペイ間の3等列車も楽ではなかった。途中のデリーに着いたときは、白いシャツはほぼ真っ黒になっていたのを憶えている。

サハラ干ばつ救援委員会～青年海外協力隊

アフリカから帰ると西アフリカのサヘル地方で大干

ばつがあり、多くの人たちが亡くなっていることを知った。アフリカに少しでも恩返しができたらということでお仲間たちと「サハラ干ばつ救援委員会」を結成し、トンバルバイエ大統領に何か役立ちたい趣旨の手紙を書いた。代々木のオリンピックセンターにただで事務所を借りることができた。チラシを作り団地などを廻り一般の方々から古着などを送っていただいた。一方で、経団連にもアフリカ委員会があるのを知り、委員長を務めておられた三菱重工会長の河野文彦氏へ連絡を取るために丸の内の重工本社に電話（代表）を入れた。驚いたことにご本人に回してくれて、数日後に会うことになった。本社を訪れて河野氏に面会し、趣旨、目的等を説明すると、直ぐに目の前の電話で経団連本部に電話を入れ、専務理事の花村仁八郎氏とお話しされ、花村君に会うようにといわれた。助成金、補助金システムの中で事を運ぶ今では考えられない、人間と人間が直接会話する時代であった。後日経団連を訪れると、企業募金のリストを渡され、「ここまでは協力しますからあとは自分たちの足で各企業を歩き、資金を集めなさい」と言われた、リストには日本を代表する企業が、業種別に書かれており、その横にはたとえばトヨタ自動車70万円、三菱電機30

株式会社 タナカ通商

真珠美の創造

代表取締役 田 中 博 也 (専拓7期)

眞珠と共に50年 何なりと
お気軽にお問合せ下さい

〒104-0061 東京都中央区銀座8-10-8
銀座8-10ビル3階
TEL(勤務先)03-3571-3088 FAX 03-3571-3089
TEL(自宅)03-3322-1994
E-mail: tanaka.h@sea.plala.or.jp

万円、伊藤忠商事30万円・・・といった数字が書かれてあった。最終的に総額400万円!集まり、粉ミルク、乾パン、古着、テント、中古ジープ(現地使用)などを2個のコンテナに乗せ、川崎汽船宗島丸でナイジェリアのポートハーコートに送り、1973年11月、イタリア経由で飛んだわれわれ5人は荷を受け取り鉄道、車で最終目的地、チャドの首都フォートラミー(現ンジャメナ)に運んだ。政府関係はじめ大歓迎され最終的にチャド赤十字に引きわたした。今、改めて考えると、何か今の時代では考えられない夢のような気がしないでもない・・・。その後1975年には青年協力隊でタンザニアに行った。

テレビ・メディアの世界へ

(番組コーディネーター~紛争取材)

青年海外協力隊(1975~77年)から帰ってしばらくして知人からアフリカドキュメンタリー番組(自然、動物)のコーディネーターをやらないかと誘われた。赴任地がタンザニアだったのでスワヒリ語が話せるようになっていたし、動物番組は東アフリカが多いので声を掛けられた。とくに1970~80年代は日本経済が右肩上がりの絶好調期で今と違いテレビもかなりの金があった。今では3週間もあれば長期ロケの部類に入るが、当時は、番組1本作るのに2か月、3か月かけるのは当たり前だった。車2台、3か月使って車代だけで400万円くらい払ったのを憶えている。

1992年、母親が亡くなった年、内戦で混乱するソマリアにアメリカ軍を中心とした国連部隊(UNITAF)が、首都モガディシュの海岸に上陸した。任務は武装グループによって略奪される救援食料を被災者たちに届けること、それを邪魔する武装グループを排除することだった。その年末、わたしはじめて8mmビデオカメラを持ってソマリアに向かった。それがアフリカ紛争取材の最初だった、その後、南スーダン、ルワンダ、コンゴ、アンゴラ、北ウガンダ、イラクなど現地取材を続けて行き、時にテレビの夜のニュース枠の中で放送された。

紛争地現地取材で大切なこと

セキュリティ(安全の確保)を越えるプライオリ

ティはない。100%安全というのはもちろんあり得ないが、その時できる範囲で、どのようにして安全を確保するのか、もっとも重要なのは情報と情報網=ネットワークの構築だ。これいかんによって、取材内容の質は当然であるが、安全の質も決まる。すべて現地の判断にゆだねるのか、時に自分で判断するのか、そうした判断、直感力の連続だ。

プレゼンテーション、3つのキーワード→WRS

プレゼンテーション力もまた現地取材においてきわめて重要だ。個人的にではあるが次の3つがポイントだと考える。① W=Who am I; わたしは誰なのかを伝える、スパイ容疑等をかけられないとても重要。② R=Request; わたしは何をしに来たのか、つまり自分の要求を明確に相手に伝える。かれらは日本人と違って肩書き以上にその個人が今何を求めているのかに価値を置く。③ S=Straight; ①、②をストレートに相手に伝えることだ。多忙とか、不在以外、断る理由がない限りかなりの確率で受け入れられる。

今、最も気を付けること

それは、誘拐だ。おかしな言い方だが爆弾テロや銃撃戦はある意味巻き込まれ感があり、不運とかで言い訳も立つ?しかし、防げる誘拐だけは絶対に避けるべきだ。誘拐はことが自分だけでは済まなくなり、また長期化し面倒だ。この時こそ今自分を囲む情報・ネットワーク力を問われることになる。



住まい作りのトータルプランナー

宅地建物取引業 千葉県知事免許(10)第6298号

 **南房商事株式会社**

代表取締役 藤井 勝政(拓殖1期)

〒297-0029 千葉県茂原市高師57番地
電話 0475(23)3251(代表)

地域一番の品揃え
花と緑
TABLE GARDEN
契約農家直送、だからこそ新鮮!!

テーブルガーデンセンター

TEL 045-935-4187(代)
〒226-0023 横浜市緑区小山町 611-3

代表取締役社長 篠原 敬一(拓殖20期)

西表島に移り住んで

国際農業開発学科 45期生 嘉本 祥司

西表島に移り住んでから、早10年の月日が流れました。大学卒業後1年も経たないうちに移住し、結婚し、今は3歳の娘の父親です。

思い返せば、農大に入学し海外移住研究部に入ったことが全てのきっかけでした。移住研に在籍していたのは1年のみでしたが、OBの方々・先輩方・同期から学んだことや与えてもらったきっかけが、今現在の自分に直結していることは間違ひありません。「自分は日本で、農業で生きていこう」と、この1年間の移住研での活動と、先輩方や同期と語り合う中で行き着いた答えでした。

大学2年の春休みから、さとうきびの収穫いわゆる‘きび刈り’をしに、きび刈り援農隊を組織して毎年西表島を訪れました。一番多い時は13大学40名の学生が、きび刈り援農隊として畑で共に汗を流しました。



筆者と協同経営者がサトウキビを見上げる姿

さとうきびの収穫は基本的に1月から3月にかけて行います。製糖工場がその年の島全体での収量を予測し収穫開始日を決めます。1度始めると3週間に1日の工場の整備以外は製糖し続けるので、収穫サイドの農家は、島全体で1日平均80トン収穫しないといけません。自動的にこちら側の休みも3週間に1日になります。

きび刈りは、とにかくきつい。ナタで1本1本根元からきびを刈り、それを運んで積んである程度の大きさの山にし、専用の鎌で掃除をして、またそれを山にする。トラクターで畑周囲の道路まで運んで、専用の10tトラックで製糖工場まで運搬してもらう。慣れている人は、1日1t以上の収穫が基本になります。

きび刈り援農隊は、西表島東部地区のきび農家の中で援農隊を使ってくれる15名ほどの農家に毎日2・3名ずつ、毎日違う農家に手伝いに行きます。その中で他の農家の方々とは少し違う、ぐっと引き寄せられる方がいました。オーラがありました。「なんだこの人は」と思いました。聞くと、西表東部地区のきび農家の中、個人経営の農家の中ではダントツの15haほどの栽培面



サトウキビの収穫作業

積を持っていて、その膨大な面積にも関わらずどの畑も上等に育て上げる。さとうきびを作らせたらこの辺りで1番だと。イノシシの狩猟でも1番、海に投網漁に行っても1番。とにかく、何でもやるなら極めるまでやる。

衝撃的な出逢いを経験しておきながら、卒業後某メーカーの営業の職に就きました。しかし正直・・・つまらなかった。在学時に出逢い、共に活動してきた仲間たちが濃すぎました。

農大は少し特殊な大学だと、中でも開発学科は特殊な学科だと捉えています。ただ大学進学を目指している人の選択肢に、「農業」と名が付く大学はなかなかエンタリーレンジなさそうです。中でも国際農業開発学科という特殊な学科は、芯があり、個としての意見を持っている。そんな人が多かったと思っています。そんな人々の中で4年間を満喫した自分にとって、就職先では忙しいながらも退屈な日々が続きました。そして何より、あの西表島で出逢った圧倒的な背中が忘れられませんでした。



近所の仲間橋より

決断はすぐでした。某メーカーには申し訳ありませんでしたが、9ヶ月で退社し西表島へと旅立ちました。すぐに農業を始めた気持ちはありました。そんな訳にもいきません。お金もない、土地もない、機械もない。在学時に、農業の座学と、多少の実習の経験は積んだが、その程度では現場では大して役に立たない。

しかしやる気と、援農隊で培った‘きび刈り’の経験は活きました。憧れ続けたオーラを纏う、金城清さんの

もとを訪ね‘きび刈り’のアルバイトとして雇ってもらい西表島生活がスタートしました。

きび刈りシーズン終了後、ホテルのフロントや、農園などで仕事をしながら、休みの日は金城清さんの畑を手伝い、自らの畑を持てる日を夢見て過ごしていました。機会を伺いながら5年の月日が流れ、ようやく畑を貸してもらえることになりました。同時に島に住み着き、同じように営農を志す2つ年上の友樹と一緒に農業していくこうとタッグを組み、やっと夢の営農への第1歩です。

それから、借金をしてトラクターを買い、少しづつ畑を増やし、今は約3haにまでなりました。さとうきびとパイナップルを中心に、今は新たにパッションフルーツとシークワーサーにチャレンジしています。まだ農業だけで2家族を養える状況ではないので兼業農家ではあります、夢に向かって少しづつ前進しています。

大学時代は、農業で生きていくといつても何か壮大な夢を描いていました。しかしその夢へと着実に向かっている今、その夢は現実的な計画に変わってきています。「日本で農業をすることで世界を変える」から、「安全で新鮮で、とにかく美味しいものを、沢山の人に食べて幸せな気持ちになってもらいたい」へと。その中

で、西表島の観光と農業の繋がりをもっと作りたい、西表島のパインをブランド化したいと、夢はいっぱいあります。

10年後、20年後、この夢がどれだけ叶えられているのか、新しい目標ができているのか、どのように農業に取り組んでいるのか。自分で自分が楽しめます。不安や問題もありますが、この地での人生を謳歌していきます。



収穫前のパイナップル畑の様子

国際農業開発学科の動静

2013年度の本学科(板垣啓四郎学科長、足達太郎主事)の動静は以下のとおりである。

2013年		2014年	
3月	20日 2012年度卒業式(卒業者189名)	9月	2日～6日 農業総合実習 (1年生、伊勢原農場にて)
	2日 2013年度入学式(入学者158名)		27日 後学期授業開始
4月	5日～6日 新入生学外オリエンテーション (神奈川県立足柄ふれあいの村)	10月	10日～15日 農業開発実習 (第3組、東京農大宮古亜熱帯農場にて、 学生40名、引率：堀内久太郎教授。 台風のため期間を1日短縮)
	8日 前学期授業開始	11月	1日～3日 収穫祭
	10日～16日 農業開発実習 (第1組、東京農大宮古亜熱帯農場にて、 学生51名、引率：三簾久夫准教授)		4日 体育祭
6月	1日 教育懇談会	12月	25日～1月5日 冬季休業
	6日～12日 農業開発実習 (第2組、東京農大宮古亜熱帯農場にて、 学生51名、引率：杉原たまえ教授)	1月	2014年
	15日 ホームカミングデー		6日 後期授業再開
7月	3日～4日 地方教育懇談会		31日 卒業論文提出期限
	28日 高校生向けワークショップ 「ひらめきときめきサイエンス—ようこそ大学の研究室へ」	2月	2日～8日 農業開発実習 (第4組、東京農大宮古亜熱帯農場にて、 学生45名、引率：真田篤史助教)
	29日～8月2日 前学期定期試験		10日～14日 後学期定期試験
8月	4日～5日 キャンパス見学会		12日 優秀卒業論文発表会
	5日～9月26日 夏季休業	3月	14日 卒業・進級確定者発表
			20日 卒業式

大学の運営に尽力

平成26年4月に東京農業大学の首脳人事が行われ、夏秋啓子教授が東京農業大学副学長に就任しました。

東京農業大学拓友会賞

ササの機能性成分の抽出残渣を利用したボカリ肥料の施用がコカブ(*Brassica rapa* L.)の生育および品質に及ぼす影響

熱帶園芸学研究室 笹川 友美
指導教員 高橋 久光
小塩 海平
真田 篤史

本研究ではササの機能性成分抽出残渣を利用したボカリ肥料がコカブの生育および品質に及ぼす影響について調査を行った。その結果、以下の点が明らかとなった。

- (1) ササ残渣ボカリ肥料の成分はササ由来の成分により全炭素含量、C/N比、リン、カリウム、カルシウム、マグネシウム含量が高い値を示した。全窒素含量はボカリ肥料が高い値となった。
- (2) ササ残渣ボカリ肥料の施用が土壤の化学特性および物理性に及ぼす影響では、春作は栽培前に比べどの処理区でもECの値は高かった。土壤物理性は春作、秋作ともにササ残渣ボカリ肥料区が最も固相割合が理想に近い値となった。土壤有機物吸着による団粒構造の形成が示唆された。土壤の無機態窒素含量は化成区が高い値であり有意な差が見られた。秋作ではアンモニア態窒素含量でササ残渣ボカリ肥料区が最も高く、硝酸態窒素含量では化成区が最も高い値となった。
- (3) ササ残渣ボカリ肥料の施用が春作コカブの生育に及ぼす影響では、葉部、根部ともに化成区が高い値を示した。また、春作の栽培期間中の気温が高いこと

からコカブの生育適温が15~22℃のため高温域に達すると生育速度が減退することが示唆されている。

- (4) ササ残渣ボカリ肥料の施用が春作コカブの品質に及ぼす影響ではアスコルビン酸含量はササ残渣ボカリ肥料区が最も高く、有意な差が認められた。コカブの無機成分含量では葉部はリン、マグネシウム含量でササ残渣ボカリ肥料区が高い値を示し、カルシウム含量ではササ残渣ボカリ肥料区がやや低い値を示したが有意な差はなかった。カリウムではササ残渣ボカリ肥料区が最も高い値を示し有意な差が認められた。根部ではリン、マグネシウム含量でササ残渣ボカリ肥料区が高い値となり、カルシウム含量では化成区が高い値となった。カリウム含量においては、化成区が低い値を示したがいずれも有意な差はなかった。コカブの100gあたりの硝酸態窒素含量では化成区が最も高く、ササ残渣ボカリ肥料区が最も低い値を示し有意な差が認められた。
- (5) ササ残渣ボカリ肥料の施用が秋作コカブの生育に及ぼす影響では、葉数、最大葉身長は化成区が最も高い値となった。ボカリ肥料区、ササ残渣ボカリ肥料区はほぼ同等な値であった。葉色値では、調査時の最終日にはササ残渣ボカリ肥料区が最も高い値であった。土壤中の硝酸態窒素含量が異なることで生育および収量に有意な差が認められた。
- (6) ササ残渣ボカリ肥料の施用が秋作コカブの品質に及ぼす影響の結果では、還元型アスコルビン酸含量は葉の部分では化成区が最も高い値となり、茎の部分はササ残渣ボカリ肥料区が最も高い値となった。根部

定期借家一路払いで有利よりお申に
1年一括払い=5%OFF・5年一括払い=10%OFF
間取り変更替え自由な街生涯賃貸

人材急募⇒ オーナー登録登録

軽井沢のヴィラが川口にお手頃賃貸でやってきた!

La villa chez Kato 2012年4月竣工
コンパウンド形式のオートロック
高級のような白樺のバティオ
設計・監理・企画運営 Owner 加藤耕誠
ソーラーパネルも取り扱ってあります
お気軽にお声掛けください

日本初! カーシェアリング村賃貸マンション
TOYOTAハチロクGTリミテッド&
スペイドが新たに加わりました
敷金・礼金・ZERO
学割! キャンペーン
1R&1LDKの家賃が月々1万円引き

Nack5 のCMでおなじみ
「安心のわが家におかえりなさい」

川口 賃貸 **UNI-HARVEST**

ユニ・ハーベスト株式会社 一般建築士事務所登録登録 (1)登録登録
加藤耕誠建築デザイン研究室 <http://www.e2103.jp>
本社 埼玉県川口市東篠ヶ谷4-17-5TK創造ビルフレーチェ
デザイン事務所 Phone. 048(285)08486 FAX. 048(288)0868

加藤耕房グループ 関連法人 CEO 加藤耕誠
ビューティージュエル LTD 加藤耕房有限会社
有限会社 テラ・アクア総合研究センター 加藤農園

では化成区が最も高い値となり各部分で有意な差が認められた。コカブの無機成分の葉部ではリン、カルシウム含量でササ残渣ボカシ肥料区が高い値を示したが有意な差は認められなかった。カリウム含量は化成区が高い値であったが有意な差は認められなかった。マグネシウム含量ではササ残渣ボカシ肥料区が最も高い値となり有意な差が認められた。根部ではどの成分でも化成区が高い値であったが有意な差は認められなかった。硝酸態窒素含量では100gあたりの葉

部、根部とともに化成区が最も高い値となり1株あたりで見ても化成区が最も高い値となった。100gあたりの葉部以外の値では有意な差が認められた。土壤中の全窒素含量との関係が明らかとなった。

本学生は1年次より研究室活動にも真摯に取り組み、室長として研究室の運営も行っており東京農業大学拓友会賞に値する論文である。

拓友会賞を受賞して

熱帶園芸学研究室 笹川 友美



この度は、拓友会賞をいただきましてありがとうございました。論文を完成させるにあたり、先生方をはじめとする先輩方、同期、後輩、家族から支えていただきました。本当にありがとうございました。私は1年次から研究室に所属し、夜を徹して行った初めてのボカシ肥料作りのことは今でもよく覚えています。使い方次第では有効活用できるはずのものが捨てられていることも知り、それらがきっかけとなりボカシ肥料についてもっと学びたい、ボカシ肥料で産業廃棄物を有効活用したいと強く思うようになりました。

今回、私の卒業論文で使用したササ残渣は長野県の大和生物研究所から頂きました。ササ残渣は、ササの葉から成分を抽出して医薬品を作る際に大量に排出・処分されるため、これを原料のひとつとしてボカシ肥料を作成し、有効活用しようと決めました。有機農業で用いられる有機質材や有機質肥料は多種多様な組み合わせと作り方があり、まだまだ研究が必要な分野の1つだと思います。

私は、この論文を完成させるうえで多くの経験をさせていただきました。ボカシ肥料づくりはもちろん、植物の栽培方法、分析方法など知識や技術は吸収することだらけでした。特に植物相手に休みはありません。圃場での栽培は天候も大きく関係し、春作、秋作ともに雨風や台風で栽培作物が大きな被害を受けました。その都度先生方や同期、先輩方に相談し、どのように栽培を続けたら良いのか試行錯誤を繰り返し、無事収穫することができました。結果を出すことはもちろんですが、どのような結果であれ現実をまず受け止める事、どんな結果でもその結果を出すまでの過程が重要であるということを学ぶことができました。

現在は、東京農業大学を卒業し、新潟県にある培土メーカーで営業職として働いています。私の好きな“土”に携われる仕事に就けたことを嬉しく思います。実際の生産者やお客様に比べたら、私は現場の知識も少なく日々学ぶことばかりです。しかし、営業を行っている中でご縁があり、東京農業大学の卒業生にお会いできた時は親近感が湧き嬉しくなります。お客様との会話の中で、農業を通して経験してきたことはとても役に立ち、私自身未熟ではありますが、土という観点から少しでも貢献したいと思います。大学で学んだことは農業の知識だけでなく、人との繋がりやコミュニケーション力など普段の授業の中では教えてもらえないことだと感じています。社会に出て、注意されること、覚えることなどたくさんあり慌ただしい毎日ですが、失敗しながら学び、成長していきたいと思います。



株式会社 ムラカミ シード
MURAKAMI SEED CO.,LTD

本 社

〒309-1738 茨城県笠間市大田町341
TEL 0296-77-0354 (代) FAX 0296-77-1295
<http://www.murakami-seed.com>

ムラカミシード水戸研究農場

〒319-0323 茨城県水戸市鯉渕九ノ割5986
TEL 029-259-6332 (代) FAX 029-259-6226

代表取締役会長 村上典男(拓殖23期)

ガーデンショップ花みどり本店

〒319-0323 茨城県水戸市鯉渕九ノ割5986
TEL 029-259-6332 FAX 029-259-6226

村上 登(拓殖26期)

村上忠義(拓殖29期)

農家民宿の普及による
棚田農家の所得向上に関する研究
—ベトナム・ラオカイ省サパ地区を事例として—

地域農業開発研究室 松葉 陽平
指導教員 堀内久太郎
三簾 久夫

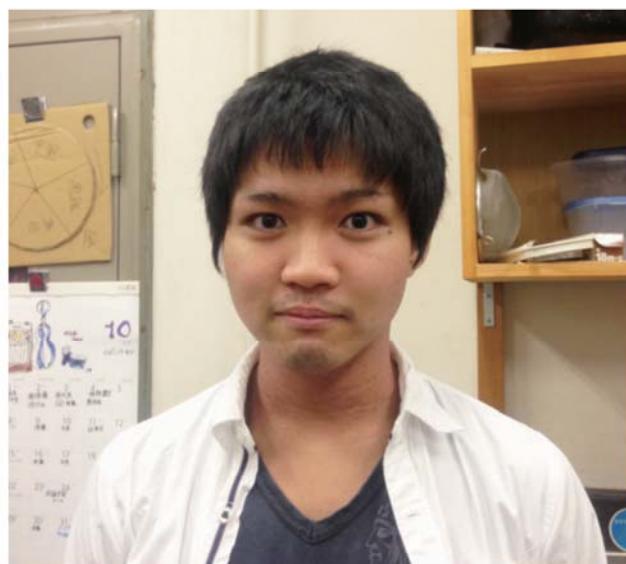
ベトナム・ラオカイ省サパ地区は、首都ハノイから北西250kmの中国雲南省との国境に位置する観光地域である。周りは高い山並みに囲まれており、町の中心地の標高は約1,650mである。サパ地区は、1932年からフランス人の避暑地として本格的に開拓された。現在は、多くの外国人観光客が訪れる有名な観光地域である。サパ地区を支えている観光資源は、冷涼な気候条件と山岳風景、少数民族農家(以下農家)による山岳棚田や伝統工芸、伝統家屋などが挙げられる。とくに、棚田を含めた山岳風景は観光客から高い評価を得ている。

サパ地区的農家は生活費を稼ぐために棚田農業経営や伝統工芸品の移動販売、伝統家屋を利用した民宿経営を行っている。その結果、同地区には山岳棚田や伝統工芸品、伝統家屋などの観光資源が維持される。農家は、市街地で働くことで農業所得以上の所得を得られる可能性がある。しかし、農外就業のために離農・離村する農家が増えれば、農家による上記観光資源の維持が困難になる。観光地としてのサパ地区の持続的な発展には、農家が行政村内で所得を向上させる必要がある。その有効な方法として、農家民宿の経営が挙げられる。

本論文の成果は主に3つある。第1に、農家調査で得た農業所得・農外所得、家計費・家計収支を比較分析し、民宿を経営している農家は高い民宿所得によって、民宿を経営していない農家よりも農家所得が高いことを明らかにした。第2に、①農家民宿の経営条件は3人以上の労働人数と、80,000千VNDの

初期投資が必要であること、②行政村に民宿が普及する地理的条件は、市街地を朝出発して夕暮れに到着する場所に位置すること、の2点を明らかにした。第3に、サパ地区の農家所得向上には、行政村内外の協力が必要であることを明らかにした。具体的には、「観光客が通過もしくは宿泊する行政村」では、観光客のための食材・伝統工芸品の過不足を行政村内の農家間で調整することが必要である。また、「観光客が訪れない行政村」では、食材や伝統工芸品が不足している行政村にそれを提供することが必要である。

本論文はベトナム・ラオカイ省サパ地区における農家民宿の経営による所得向上、行政村における民宿の経営・地理的条件、行政村内外における農家の協力の必要性を実践的に究明するものであり、その独創性、先駆性と現地調査でのデータがとくに優れていると考える。



農大市場

(株)メルカード東京農大

ビタミンCの王様「カムカム！！」是非お試しください！

<http://www.ichiba-n.co.jp>
TEL: 03-5477-2250
FAX: 03-5477-2251
〒156-8502 世田谷区桜丘1-1-1



拓友会特別賞 小林とし子

志和地 弘信 記述

小林とし子さんは 66 歳で本学に入学しました。それまでは、長年トーゴ共和国において貧困層の家庭の子ども達への教育支援活動をやってきました。しかし、アフリカでの援助活動において食料生産の重要性が身にしみたそうで、農業開発に関する学問を改めて勉強したくて国際農業開発学科への入学を決意したそうです。

入学後は、熱帯作物学研究室に入室し、イネやヤムイモの栽培を学びながら 2 年生時にはパプアニューギニアでの農業実習にも参加しました。3 年生時には研究室のゼミ担当として収穫祭文化学術展の学術展示を主導しました。卒論のテーマは「ダイジョの選抜品種の生育特性に関する研究」であり、

年間の半分は宮古島の試験圃場でのヤムイモの栽培管理、調査、分析に情熱を燃やしました。この研究は東京農大と東急電鉄（株）による産官学共同プロジェクトの第1号案件であり、成果が必要とされる中で、小林さんは大変よく実験データを取ってくれました。

小林とし子さんは人生の先輩として、悩みの多い学生達の話を良く聞いて、面倒をみてくれました。熱帯作物学研究室ではお母さん的な立場のムードメーカーでもありました。彼女のバイタリティーとやさしさは、学生達の尊敬するところであり、青年海外協力隊をめざす学生達にとっては良き模範であったと思います。卒業後は念願のNPO法人を設立し、再び西アフリカでの支援活動をめざしています。

国際農業開発学科 学生の活躍(学年は当時)

- *2013.9.22 第38回全国学生相撲個人体重別選手権【無差別級】3位 正代直也(開発4年)
- *2013.10.23 第107回東都大学学生競技ダンス選手権ラテンの部
パンドブレ 準優勝 中川卓也(経済4)・山田綾乃(開発4)
- *2013.10.17~18 文部科学大臣杯25年度全日本学生レスリンググレコローマンスタイル選手権大会
96kg級 3位 山田圭史(開発3)
- *2013.11.2~3 第91回全国学生相撲選手権大会 個人戦 3位 正代直也(開発4年)
正代直也くんは今年3月場所(大坂)で角界デビュー。四股名は『正代(じょうだい)』。
時津風親方(坂本正博氏:平成8年農学科卒)の下、今後の活躍が期待される。
- *2013.11.17 全日本学生大会(少林寺拳法部)
女子白帯緑帯 2位 真保都(開発1年)
- *2014.5.10~11 第67回都民体育大会(馬術部)
ジムカーナ(男子) 3位 深作友哉(開発1年)
- *2014.7.11 毎日新聞社、毎日書道会主催【第66回(平成26年)毎日書道展】書道部
加藤木 由美、座間 結実(開発2年) 入賞



各界入りした正代くん 応援をよろしくお願ひいたします。



株式会社東京アグリビジネス

TOKYO AGRIBUSINESS CO., LTD.
緑地防除管理・請負メンテナンス・資材販売

代表取締役会長 大橋邦雄
(昭和49年 林学科卒業)

代表取締役社長 野瀬忠
(昭和52年 拓殖18期)

〒252-0302 神奈川県相模原市南区上鶴間2-7-7

TEL 042 (744) 6237
FAX 042 (744) 6295

新任教員紹介 パチャキル バビル

国際農業開発学科 48期生
パチャキル バビル

2014年4月より国際農業開発学科熱帯作物学研究室に助教として着任しました。2003年に国際農業開発学科に入学、卒業後国際農業開発学専攻に進学し、計9年間学生として国際農業開発学科で過ごしました。大学院修了後、2012年4月から2年間沖縄県石垣島にある独立行政法人国際農林水産業研究センターの熱帯・島嶼研究拠点で日本学術振興会の特別研究員として仕事し、2014の4月に国際農業開発学科に戻ってきました。

国際農業開発学科の教員として、教育研究を行なう上で3つのキーワードを大切にしたいと考えています。1つ目のキーワードは、教育研究が机上の知識で完結することなく、農業の現場と常に連携を取りながら、得られた成果を現場に還元する「実学主義」を大切にして、教育研究を進めて行くことです。農業分野における国際協力のスペシャリストを志す学生の教育には、海外、特に途上国に教育研究のフィールドを持つことが重要であると理解しており、途上国での農業開発をリードしている国際機関や大学との学術交流を図って行きたいと考えています。

教育研究を行なう上で大切にしたい2つ目のキーワードは、東京農業大学が実施している「国際的な学術交流」に積極的に参加することと同時に母国であるインドをはじめとする南アジア地域との連携を開始し、学術交流を活発化させることです。第一次産業を含めグローバル化が急速に進む現代では、世界を相手にした競争力と異文化を正しく理解し、順応できる柔軟性を持つ人材が求

められています。世界を股にかけて活躍できる人材育成は大学教育の役割の一つであると理解しており、海外からの学生の積極的な受入や国際的な学術交流はその一助となることを信じています。

3つ目のキーワードは、東京農業大学の「学びの中心」である研究室を、世界に通用する専門知識と技術はもちろんのこと、語学をはじめとする世界で活躍するために必要なスキルを磨く場にしていくことです。

「途上国での諸問題の解決に貢献したい」という高い志をもって国際農業開発学科に入学する学生が卒業時に、熾烈な競争力が求められる国際協力の現場に自信をもって飛び立てるよう全力で教育研究を行なって行きます。教員として至らぬ点も多々ありますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いします。



観光庁長官登録旅行業第1835号 IATA(国際航空運送協会)公認代理店
(社)日本旅行業協会正会員 社団法人海外ツアーオペレーター協会正会員

ふれあいの旅を演出する (株)アルファインテル南米交流

代表取締役:佐藤 貞茂(拓殖15期)
〒105-0004
東京都港区新橋3-8-6 大新ビル3階
電話:03-5473-0541 FAX:03-5473-0540
ホームページ: www.alfainter.co.jp
メールアドレス info@alfainter.co.jp
平日9:30~18:30 土曜日9:00~12:00
日・祝日は休み




東京都知事登録旅行業第3-5792号



キックス・エアー・チケット
株式会社 キックス

代表取締役 塩満 仁
〒187-0003
東京都小平市花小金井南町2-17-2-603
Tel 042-458-1180 Fax 042-458-1180
携帯 090-1761-0970
E-mail shiomitu@bird.ocn.ne.jp
E-mail info@kix-j.co.jp

<http://www.kixairticket.com>

開発学科統一本部 収穫祭及び体育祭報告

国際農業開発学科統一本部委員長 3年
吉村 健

前年度の収穫祭は11月1日から11月3日まで、体育祭は11月4日に行われました。国際農業開発学科から多くの学生、教員が参加し、大変盛り上がりましたので、その結果について報告いたします。

まずは、収穫祭について報告いたします。僕たちは、収穫祭の1ヶ月以上前から櫓や御輿の作成に取り組みました。御輿は、毎年恒例の稻の藁を使ったゴリラを作成し、昨年のゴリラは開発学科統一本部の法被を着せました。御輿担当の者が中心となって、電動のこぎりなど危険な作業は2、3年生が中心となって行いましたが、藁を束ねる作業などは1年生も協力してくれました。年々大きさなどの規格が厳しくなってきておりますが、立派なゴリラを作ることができました。御輿は収穫祭期間中に展示するだけではなく、10月中旬に行われた経堂パレードで、御輿を担いで農大通りを練り歩きました。多くの人に見ていただき、収穫祭の宣伝をすることができました。

櫓は、ゴリラとレオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」をコラボレーションさせるという、斬新なアイデアを取り入れました。色とりどりのゴリラが、晩餐会に参加している様子を描きました。かっこいい感じではなく、ファミリー向けのかわいいゴリラを描き

ました。

また、開発学科統一本部は、ステージ企画や後夜祭、経堂門装飾にも携わっており、収穫祭を盛り上げました。

続いて、体育祭についての報告ですが、競技の部は堂々の第1位を取ることができました。競技には、多くの1年生、研究室・関連団体のみなさま、部活動のみなさまに協力していただき、断トツの得点での優勝でした。まさに、国際農業開発学科の団結力を示す結果だったと思います。みなさま、本当にありがとうございました。

その他の順位として、櫓の部は第11位、御輿の部は第13位、応援の部は第11位となり、総合順位は第3位でした。それぞれ順位は不本意な結果でしたが、すべて全力を尽くした上での結果であり、今年こそは上位を目指して頑張ります。また、応援は1ヶ月前から練習し、本番に臨みました。開発学科は例年通りトリを務め、恒例の他学科の乱入がありました。順位も大切ではありますが、全学科統一本部の役員全員がこの祭りを楽しむことに本当の意味があると感じています。

今年度の収穫祭及び体育祭は、僕たち3年生が中心となって運営していくことになります。まだまだ未熟者ではありますが、1, 2, 3年生一同が全力で取り組んでいきます。是非、足を運んでみてください。



国内外農業実習を経て、途上国へと旅立つ前に

国際農業開発学科 4年 細越 雄太

2014年から文部科学省は官民協働で、海外留学など「チャレンジをする学生」に支給型の奨学金制度「トビタテ！留学ジャパン」を設けた。そして大変ありがたいことに、その第1期生として先日合格通知を頂いた。これにより、2014年9月から2015年2月までの半年間、東南アジア、アフリカおよび農業先進地域であるヨーロッパにおいて農業実習をしつつ、各国の農業状況を学ぶ機会を得ることができた。これから訪れる東南アジアとアフリカでは、今まで自ら考え行動することで培った経験と知識がどのように役に立つかということや、現地の真のニーズについても見極めてきたい。



これまで、勉強をすればするほど、「国際協力の在り方」について悩みも深まっていた。その揺れ動く思いを確かめるには、自分自身で行動を起こしていくことしかないと考えている。この行動することに重きを置いた取り組みは、私の学生生活の根幹を成している。「トビタテ！留学ジャパン」に合格したことによって、大学入学時に立てた「大学3年間は日本の農業を学び、その後海外の農業を学んだあとに途上国へ行く」という大学時代の計画は完結しようとしている。

思い返せば、東京農業大学に入学したのは、2009年4月。もう6年前になる。国際農業開発学科入学以降、大学生活の中軸は「農業」だった。

中学2年の夏、「平和とは何か」を考える機会があった。最初は誰でも考えられるであろう「戦争が無い世界」ということを「平和」だと考えていたが、人とは違った自分だけの答えが欲しかったので、「自分にとっての平和はなんだろうか」と考えるようになった。そこで考えついたのは「食べること」であった。「食べているときは幸せであり、この幸せだと思うことが平和なのではないか?」と考えた。しかし、世界に目を向ければ今日食べるものが無いという世界が当たり前に広がっている現実に疑問をもち、「飢餓を無くしたい」という思いが芽生えた。そして、飢餓を救うためには「食事」が必要であり、その背景を考えたときに思い当たるのは「農業」であった。そして、農業で国際貢献するには、東京農業大学 国際農業開発学科で学ぶのが一番だと考えた。

私は、東京都目黒区出身であり、当時は自国の農業を自分の言葉で説明できなかった。農業支援に行く人が自国の農業を知らないというのは可笑しいと考え、3年間で計50回以上、のべ日数約200日の国内ファームステイをして、農業実習経験を積んだ。私が行ったファームステイは、短くて2~3日間、長くて1ヶ月間程度で、同じ農家と時間を共有させていただいた。深く農家と関わることができ充実した時間を過ごせた反面、その農家の独自の考え方には閉塞感を覚えることもあった。そこで、多様な農家との交流も必要だと考え、なるべく沢山の人々に出会うべく「農プランヒッチハイク」を企画、実行した。その後入学当初の計画通り、日本と他国の農業の比較のために1年半の間 休学し、約19ヶ月のアメリカ農業研修に参加した。アメリカで語学研修2ヶ月、家禽農場に2ヶ月、その後、約1年間オーガニック農場で研修を行った。さらに、農業分野では世界一と称されるカリフォルニア大学デイビス校で2ヶ月間、アメリカ農業について学んだ。

The website features a green header with the university's name and the department's name. Below the header, there's a banner with the text "情熱ひろば" (Hotspot) and "国際協力できる人" (People who can cooperate internationally). The main content area shows various images related to agriculture and research.

2007年から国際農業開発学科を志望する中高生向けに学科を分かりやすく紹介するホームページ (<http://www.nodai.ac.jp/int/develop/index.html>) を公開しました。

海外実習や国内（学内・学外）実習、教員・学生の調査の様子、研究の様子について学部生・院生・教員からの投稿記事を随時掲載中。[\(http://nodai.cc-town.net/modules/nmblog/categories.php\)](http://nodai.cc-town.net/modules/nmblog/categories.php)

国際協力を志すご子弟や教え子の進学先を考えていらっしゃる方、是非一度アクセスを。



家禽農場では、鶏、七面鳥、ヤギ、うさぎを扱った。その中でも鶏がメインだったので、来る日も来る日も餌やり、水やり、屠殺と解体、卵の収集を、朝6時から夕方6時まで、週7日間行った。研修先には、日本人の私を含めて、ウクライナ人が2名、ウズベキスタン人が1名、フィリピン人が1名の計5名の研修生とアメリカ人のボスと奥さんと娘さん、またファーマーズマーケット販売員としてアルバイト1名がいた。途中から近くの刑務所から社会復帰目前の収容者1名がアルバイトとして農場に働きに来た。毎朝、ボスが刑務所まで迎えに行き、毎夕刑務所に送りに行く。凄く良い人でトラブルは何も起きなかったが、屠殺や解体をするときにナイフは必ず使うので、いつ何か起きてもおかしくない状況であったのは間違いない(笑)。それも含めて何事もなかったので、いまでは「アメリカらしくて面白かった」と振り返ることができる良い思い出である。

その後、オーガニック野菜・果樹農場へ移動し、約1年間の研修を行った。農場主は約20年前にアメリカに移住した日系1世であり、アメリカのオーガニック農業のことを理念的にも技術的にも沢山教えていただいた。ここで一緒に働いていたのは、陽気なメキシコ人2名で、彼らと作業しているとどんな作業でも楽しく感じられる錯覚に陥る。実際は、本当に大変な作業の時や真夏の作業時に陽気でいられると、鬱陶しさの方が勝ることがしばしばあったが…。それでも今までのような短期間の研修では味わうことができない、農業の大変さや楽しさというものを知ることができた。作業内容については、「農作業」と聞いて想像できるほとんど全てのことを行ったのではないかと思う。その中でも、除草の作業が圧倒的に多かったのは言うまでもない。

そして、実習が終わる頃には日米合計で785日の農業実習経験を積むことが出来た。

最後に、国際協力を志し学んでいると、現実的な問題にしばしばぶつかる。それは国際協力というものが

本当に必要なのかということである。人が抱えている問題は、各々で幸せの価値観が違い、文化・習慣が違うなどといった哲学的な問題であったり、世間体や家族からの目、また金銭的な面での問題から志半ばで諦めざるを得ない、自分自身が生きていくための問題であったりと多種多様である。私自身も、これから途上国を中心に海外に半年間滞在するが、その後は一般企業に就職することが決まっている。仕事を通じた「国際協力」は、間接的な貢献しか期待できないかもしれない。しかし、この先もこの大学生活で培った経験、また初心を忘ること無く歩んでいきたいと思っている。そして将来「国際協力」の分野で直接的な貢献について、ここでまた皆様にOBの活動として必ず報告できる様に地道に努力していきたい。



農業生産法人(株)ライフオン

樋口 稔 (拓殖10期)

〒059-0272 北海道伊達市北黄金町 119-47
〒181-0004 東京都三鷹市新川 3-15-12
Tel:0422-48-8976
Mobile:090-3203-4950

拓友会 第30号 2014年9月30日号

第54期 一般会計収支決算

(平成24年10月1日~平成25年9月30日)

一般会計

	予算	決算	差異
収入の部			
1. 会費	2,210,000	1,760,000	▲ 450,000
卒業生	2,010,000	1,660,000	▲ 350,000
既卒者	200,000	100,000	▲ 100,000
2. 事業	500,000	416,000	▲ 84,000
ニュース広告	320,000	230,000	▲ 90,000
行事等収入	180,000	186,000	6,000
3. 寄付金等雑収入	50,000	52,074	2,074
4. 前年度繰越	268,168	268,168	0
合計	3,028,168	2,496,242	▲ 531,926

予算 決算 差異

支出の部

	予算	決算	差異
支出の部			
1. 事業支出	1,180,000	1,012,916	▲ 167,084
総会費	180,000	185,236	5,236
新入会員歓迎会費	200,000	200,000	0
名簿整備	100,000	100,000	0
ニュース発行	400,000	337,680	▲ 62,320
拓友会賞	100,000	40,000	▲ 60,000
在校生への補助	200,000	150,000	▲ 50,000
2. 管理費	1,150,000	796,053	▲ 353,947
会議費	100,000	89,775	▲ 10,225
印刷費	100,000	0	▲ 100,000
交通費	50,000	36,000	▲ 14,000
通信費	500,000	458,048	▲ 41,952
消耗品費	150,000	98,000	▲ 52,000
雑給費	100,000	100,000	0
雑費	150,000	14,230	▲ 135,770
3. 特別会計積立金	300,000	300,000	0
4. 予備費	398,168	0	▲ 398,168
5. 次年度繰越金	0	387,273	387,273
合計	3,028,168	2,496,242	▲ 531,926

特別会計

	予算	決算	差異
収入の部			
1. 前年度繰越	1,723,313	1,723,313	0
2. 一般会計より繰入	300,000	300,000	0
3. 雑収入	1,000	1,161	161
合計	2,024,313	2,024,474	161
	予算	決算	差異
支出の部			
1. 次年度繰越金	2,024,313	2,024,474	161
合計	2,024,313	2,024,474	161

第55期 一般会計収支予算

(平成25年10月1日~平成26年9月30日)

一般会計

	第54期	第55期	差異
収入の部			
1. 会費	2,210,000	1,760,000	▲ 450,000
卒業生	2,010,000	1,610,000	▲ 400,000
既卒者	200,000	150,000	▲ 50,000
2. 事業	500,000	480,000	▲ 20,000
ニュース広告	320,000	300,000	▲ 20,000
行事等収入	180,000	180,000	0
3. 寄付金等雑収入	50,000	50,000	0
4. 前年度繰越	268,168	387,273	119,105
合計	3,028,168	2,677,273	▲ 350,895

第54期 第55期 差異

	第54期	第55期	差異
支出の部			
1. 事業支出	1,180,000	1,180,000	0
総会費	180,000	180,000	0
新入会員歓迎会費	200,000	200,000	0
名簿整備	100,000	100,000	0
ニュース発行	400,000	400,000	0
拓友会賞	100,000	100,000	0
在校生への補助	200,000	200,000	0
2. 管理費	1,150,000	1,050,000	▲ 100,000
会議費	100,000	100,000	0
印刷費	100,000	100,000	0
交通費	50,000	50,000	0
通信費	500,000	500,000	0
消耗品費	150,000	100,000	▲ 50,000
雑給費	100,000	100,000	0
雑費	150,000	100,000	▲ 50,000
3. 特別会計積立金	300,000	200,000	▲ 100,000
4. 予備費	398,168	247,273	▲ 150,895
合計	3,028,168	2,677,273	▲ 350,895

特別会計

	第54期	第55期	差異
収入の部			
1. 前年度繰越	1,723,313	2,024,474	301,161
2. 一般会計より繰入	300,000	200,000	▲ 100,000
3. 雑収入	1,000	1,000	0
合計	2,024,313	2,224,474	200,161
	第54期	第55期	差異
支出の部			
1. 次年度繰越金	2,024,313	2,224,474	200,161
合計	2,024,313	2,224,474	200,161

農業環境科学研究所

文責：農業環境科学研究所 4年 大谷 侑也

はじめに

地域レベルの環境問題は今や地球規模にまで拡大し、その対策・解決は21世紀最大の課題と目されています。そのなかで、環境を保全し、限りある資源を活かした持続可能な資源環境型社会の実現が世界的に必要とされるようになっています。当研究室では生態学的視点をもった資源循環型社会の構築を目的とし、人間活動が水質・土壤・生態系に及ぼす影響と環境保全対策、資源の有効利用について研究しています。また春・秋に実施する研修では、調査方法を学び、環境問題を取り組む現場の観察をおこなっています。所属学生は水質・土壤・植物の分析方法を習得し、研究課題に取り組んでいます。

研究室の先生

○中西 康博 准教授

〈研究テーマ〉

熱帯環境における栄養の動態と
環境インパクトに関する研究

○入江 満美 助教

〈研究テーマ〉

地形条件が土地利用変化に与える影響
(棚田の維持と放棄について)

畜産業が環境に与える影響に関する研究

現在、行っている研究

●鹿児島県与論島におけるサンゴ礁生態系インパクトに関する研究

キーワード・・・「サンゴ礁劣化」「富栄養化」「安定同位体」「海洋酸性化」

与論島はかつて「東洋に浮かぶ輝く一個の真珠」と称されるほど、発達したサンゴ礁がみられる美しい観光地として人気を博していました。しかし、高度経済成長の終焉とともに観光客が減少し、与論島本来のサトウキビ栽培・畜産にシフトしていきました。そしてそのシフトの過程で与論島のサンゴ礁が白化現象をおこしあり、急激に減少、劣化してしまいました。この研究で

はそのサンゴ礁劣化の調査・原因解明をサンゴ骨格に含まれる元素の同位体比を用いて行っています。

●マングローブ研究

キーワード・・・「森が消えれば海も死ぬ」「海洋生産性」「マングローブ生態系」

熱帯、亜熱帯島嶼地域の汽水域（海水と淡水が入り混じる河口域）にはマングローブといわれる植物群落が生息する場所があります。そのマングローブが放出するタンニンといわれる物質が河川に流れ出し、それが海域の生物生産性の増加に与える影響を評価する研究を行っています。

●メタン研究

キーワード・・・「土壤改良」「土壤病害抑制」

メタン発酵によりメタンガスを回収した際に発生するメタン消化液は植物の必須元素である窒素、カリウム、リンを豊富に含んでおり、また土壤改良の効果が報告されています。しかし、その作製、散布の手間などから普及には至っていません。この研究ではメタン消化液の土壤病害抑制機能を明らかにし、そして普及へつなげるためにその様々な効能の明確化を目指しています。

研究室のようす

現在、わたしたちの研究室では40名ほどの学生が在籍し、それぞれの研究に励んでいる。サンゴ、マングローブ、メタン、棚田など研究分野は多岐に亘り、そのため学生の知識、興味も多様性に富んでいます。だからといって互いの研究に関心が無いわけではなく、それぞれの研究を認め、またサポートしあい、時には活発な意見交換を行う良い研究土壤がここでは培われていると自負しています。またその人と研究の多様性がこの研究室の魅力の一つです。

毎週月曜日の昼休みには先生、院生、学部生が参加する昼食会を行っています。そこでは近況報告や意見交換、遊びの計画などざっくばらんに話をする場となっています。また春と秋に研修旅行を行っています。行き先や内容は学部生が主体となって計画をすすめます。昨年度は春に本学所有の奥多摩演習林、秋には富士農場で行いました。

食の検定®
http://www.syokukken.jp

「国際農業開発学科」の先生方に支えられて運営しています。
食の検定協会

「拓友会ニュース」広告募集中

「拓友会ニュース」では、ニュースに掲載する広告を募集しています。
広告のサイズと料金は以下のようになっています。

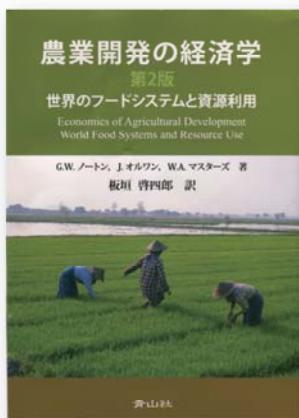
- | | |
|-----------------|-----|
| 1. 名刺サイズ | 2万円 |
| 2. 名刺2枚サイズ（中入り） | 3万円 |
| 3. 名刺2枚サイズ（裏表紙） | 5万円 |

広告の掲載を希望される方は、下記へご一報いただければ幸いです。
TEL : 03-5477-2420 FAX : 03-5477-4032
E-mail : k-ita@nodai.ac.jp 国際農業開発学科 板垣 啓四郎

開発学科教員の著書紹介

『農業開発の経済学:世界のフードシステムと資源利用』 第2版

(Economics of Agricultural Development:
World Food Systems and Resource Use 2th ed.)
G.W.ノートン, J.オルワン、
W.A.マスターズ 著
板垣啓四郎 訳
(青山社 2012年 3,000円)



この本の原著は、2010年にRoutledge社から出版された。著者らは、Virginia Polytechnic Institute and State University, Purdue Universityに所属している高名な農業経済学者である。この本は、「農業開発経済学」のテキストとして、世界中で広範に読まれており、農業開発の現状と理論および開発戦略について、経済学をベースとしながら、分かりやすい内容に仕上げた好書である。私がこの本を訳出しようと思いつ立ったのは、内容が優れているにもかかわらず、平易に書かれており、本学科に学ぶ学生や院生の教科書として適していると思いついたからである。現に、本訳書は、国際農業開発学科1年次配当の専門基礎科目「国際農業開発学総論」で教科書として利用している。幸いなことに、こうした科目を配置している他大学でも利用されて好評を博しており、訳出した者としてこの上ない喜びである。

本訳書は、5部構成になっている。

- 第1部 世界の食料と開発問題の諸相
- 第2部 開発の諸理論と農業の役割
- 第3部 農業システムと資源利用
- 第4部 農業を前に進める
- 第5部 相互依存世界の農業開発

訳出し出版してからだいぶ月日が経過してしまったが、こうした類の教科書は国内でなかなか入手できないのが実情である。

国際協力専門家の関係者にも広く読んでいただきたい。

食と農の博物館から

食と農の博物館は、東京農業大学における日頃の教育と研究の成果を、社会に発信しているユニークな体験型博物館です。お誘いあわせの上、お楽しみください。

■企画展示

開館10周年記念展示 第2弾

『バイオミメティクスを超えて!』

-昆虫などの生き物や自然に学ぶものづくり-

【期間】平成26年10月1日(水)～

平成27年3月15日(日)

【主催】東京農業大学農学部農学科

■常設展示

平成26年3月28日より古民家の再現ジオラマを2階展示室に展示しています。「村の古民家」は、特定の地域のものを対象とした復元ではありませんが、関東地方に現存した江戸後期に建てられた稻作農家の一部を参考に再現しています。

おいしさは愛。

ハム工房ぐろーばるのハム＆ソーセージは、《和豚もちぶた》を100%使用しひとつひとつ手間と時間をかけてつくられます。



ハム工房
ぐろーばる

〒377-0052 群馬県渋川市北橘町上箱田800
TEL 0279-52-3746 FAX 0279-52-3581
フリーダイヤル 0120-44-3746

クローバーレピックファーム株式会社

代表取締役 赤地 勝美（拓殖5期）
URL <http://www.gpf.co.jp>